

うちの近所 コレイチ

わが町 自慢紹介 20



大きな池と桜の広場 そして花菖蒲の競演

城北公園は、大きな池と花菖蒲園のある約9・5haの公園です。1964年（昭和39年）に旧淀川の河川敷を利用して開園した回遊式の花菖蒲園があり、花の見頃にあわせて約250種1万3000株余りの花菖蒲が観賞できます。

見頃を迎える6月には大勢の人が訪れます。大池をめぐる桜並木の散策路や梅林や遊具の丘などが設けられ、休日をのんびりと過ごす家族連れやグループの姿が見られます。



足元のぼして「京街道」を「関目の七曲がり」まで散策も
菖蒲園見学のあと、時間があれば徒歩またはバスで「今市」交差点まで行き、国道1号線と一筋東を並行している「京街道」を地下鉄「関目高殿」駅交差点付近の「関目の七曲がり」までの約3キロくらいを、往時に思いをはせて歩くのも一興です。

「関目の七曲がり」とは「関目」あたりの京街道は、右へ左へとカーブしています。大坂城防備のため、敵軍がまっすぐ進めなくすると同時に、敵の進軍を俯瞰して陣容や兵数を知るために、秀吉がわざと道路を狭く、しかも曲がりくねらせて造らせたと伝えられています。秀吉が仕掛けた罠ですね。

城北公園・城北菖蒲園
(大阪市旭区生江3-29)
■開園日時 6月1日～30日(予定)
9:30～17:00(入園は16:30まで) / 6月8日～16日(予定) 8:00～18:00(入園は17:30まで)
■大人200円(中学生以上)
■JR「大阪駅」から「34」系統「守口車庫前行」のバスで約20分「城北公園前」下車すぐ
■問い合わせ先 城北公園事務所
TEL: 06-6628-0005

Culture Navi かるちなーび

今の時代にこんなことが…恐ろしさに身体が震えた

保育所には鯉のぼりがふさわしい

そんな橋下市政の下で、保育所のポールに鯉のぼりをあげられなくなり、日の丸があがるようになりました。「こんなこと、ここ大阪でしっかり止めなくては」「全国に飛び火させてはいけない」「子どもたちの未来のためにも」という思いで、裁判に立ち上がりました。

戦前のように物が言えない時代に逆戻りさせるかのような、こんな危険な動きを止めさせるためにがんばります。あらためて署名などを広げていただくようお願いします。

2012年2月…そのアンケートは「正確に答えないと処分の対象となります」と市長の直筆のサイン入りで、業務命令として実施されました。内容は組合活動に参加したことがあるか、誰を誘ったか、他の人まで巻き込むような…仕事には全く関係のないことを問うものでした。まさに思想チェックで、今の時代にこんなことが本で行われていることに、驚きと恐ろしさと怒りに体が震えました。「処分」という言葉にすごく動揺しましたが、やっぱりアンケートは出たくありませんでした。



「スタンダップ」はシンガーソングライターのかわさきゆたかさんが作曲した「思想調査アンケート裁判」の応援歌です。

「思想調査アンケート」裁判
原告55人の決意
スタンダップ
No.9 山崎 永子さん

心に響くひとこと

● 神仏をあがめずして
社頭伽藍を口にすべからず
● (法隆寺大工に伝わる口伝)

最後の法隆寺棟梁だった西岡常一さんの「木のいのち木のこころ」という著書で紹介している言葉です。「神道や仏教の専門家にならねば寺社建築に手を染めてはならんということではなく、自分が造ろうとしているもの、かかわっている仕事がどんなものか知らなかん」という宮大工の心構えを説いたものです。ナショナルミニマムが後退し、憲法25条がないがしろにされている現在、自治体など公務労働者に求められる姿勢です。

● どれほどの強敵であったとしても、決して退いてはならない。「三十六計逃げるに如かず」というように戦略的な退却はほめられるべきです。しかし、こころ一番という大勝負で逃げていては、物事を達成することはできません。どんなに困難な目標であっても、本当に達成したいという気持ちがあるなら、決してあきらめずチャレンジし続けることが大切なのです。

● いかに強敵なるとも
● ゆめゆめ退くなかれ
● 日蓮

16th Anniversary



「はじまりのみち」

戦後初の長編カラー映画「カルメシ故郷に帰る」(1951年)や、「二十四の瞳」(1954年)、「喜びも悲しみも幾年月」(1957年)など、戦後の日本映画で数々の名作を残した日本を代表する映画監督・木下恵介の生誕100周年記念作品です。

木下恵介は戦時中、自分が監督した映画「陸軍」が戦意高揚の映画になっっていないと軍部からマークされ、次回作にもクレームをつけられ、実家のある浜松に帰ります。ちょうどその頃、脳溢血で倒れた母を空襲から疎開させるため、2台のりヤカーに母と身の回りの品を積んで、兄と便利屋の3人で山越えをしながら、数十キロも離れた山村へと

木下恵介監督生誕100周年へのオマージュ

向かいました。映画はこのエピソードを中心に、戦争という時代の荒波に巻き込まれながらも互いを思いやる母と子の情愛、軍部からならまれても民衆は木下恵介の映画を支持していたことなど、木下恵介監督の若き日の姿を描いた人間ドラマです。

監督は、自身も木下恵介監督を敬愛し、アニメーション映画などで高い評価を受ける原恵一監督が初の実写映画に挑戦しました。映画の随所に「二十四の瞳」や「陸軍」など木下恵介監督の作品が引用され、原恵一監督の木下恵介監督への思い入れが感じられます。

出生地である浜松市に「木下恵介記念館」があります。上映時間は96分。